

# 理事長就任挨拶

公益社団法人 日本産業退職者協会

理事長 塩山哲郎



2024年6月3日に開催されました理事会におきまして、吉川敏孝氏の後を継ぎ理事長に就任いたしました。コロナ禍の長いトンネルを抜け、少しは明るい兆しはあるものの超高齢社会での社会福祉の変革期を迎えているこの時期に理事長職に就くにあたり、その責務の重さを痛感しております。

この度の総会で長年にわたり協会の発展にご尽力いただいた諸先輩が勇退され、理事会において会長は第6代会長西浦三郎氏から永濱光弘氏へ、第7代理事長吉川敏孝氏から小職へ、広島支部においても谷口博支部長から尾形雅美氏に引き継がれました。ここに先輩各位のご在任中に果たされましたご業績に対し、心より御礼申し上げます。

当協会は、1984年6月の発足以来、高齢者の社会参加支援に努めて参りました。2008年に施行された公益法人制度改革法により、これまでの実績を踏まえて「公益法人」

としての道を進むこととし、2012年4月に公益社団法人の認定を受けて新しい歴史の一步を踏み出し現在に至っております。

当協会は6月に創立40周年を迎える事が出来ました。これもひとえに法人会員、個人会員の皆様のご支援・ご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。40周年にあたりチャリティコンサート（社会福祉施設入居者をご招待）等記念イベントを企画しております。

厚生労働省の発表によりますと認知症の患者が2030年に523万人にのぼる見通しで、高齢者の14%にあたる7人に1人が認知症患者になると予測されています。新型コロナウイルス対策の長期化もあり高齢者の認知・身体機能の悪化で、フレイルの人たちが増加しています。当協会では「フレイル防止」活動を重点課題に掲げ、認知症予防活動「きたざわサロン」の運営、昨年秋季より「いきいきシニア塾」の開講など「フレイル防止」活動に取り組ん

でおります。多様なイベント・サークル活動を支援することにより、シニアの積極的な社会参加を促し、心身の健康実現を目指してまいります。会員の皆様には、本部や広島支部、そして神奈川会、埼玉会、西東京会、京葉会の各地域会で開催している多岐にわたるイベントに積極的に参加していただきたいと思います。

協会活動の柱となる健全な財政基盤の確立は喫緊の課題であります。諸活動に要する財源は法人会員と個人会員の皆様の年会費が基盤となり、このほか会員からのご寄付や諸事業からの収入で賄われています。SDGs協働事業、「フレイル防止」活動、会員の有する資源を活かした新事業、並びにエンディングノート「私の大切な覚書き」の頒布など既存事業の深耕などで財政基盤の強化を図ってまいります。協会の活動の原動力は言うまでもなく会員の数そのものであり、会員増強運動を推進してまいります。

最後に、当協会が皆様に愛される楽しい場であり、高齢者自身が「自立と支え合い」の精神を持ち、実りある老後となりますよう努力する所存でございます。何卒皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。ご挨拶に代えさせていただきます。